



好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対するメボリズマブによる寛解導入療法の有効性と安全性の検討：従来療法との比較

2010年3月1日から2024年12月31日までに日本医科大学付属病院 呼吸器内科で好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（以下：EGPA）と診断され、治療を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対するメボリズマブによる寛解導入療法の有効性と安全性の検討：従来療法との比較」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2010年3月1日から2024年12月31日までに日本医科大学付属病院呼吸器内科にて、EGPAと診断され治療を受けられた患者さんの治療効果や安全性を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただき、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対するメボリズマブによる寛解導入療法の有効性と安全性の検討：従来療法との比較

研究期間：研究実施許可日～2026年1月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 呼吸器内科 職名 助教・医員 鏑木 翔太

(2) 研究の意義、目的について

この研究は、EGPAと診断された患者さんがより良い治療を受けられるよう、新しい治療法と従来の治療法を比較することを目的としています。新しい治療法として使用するメボリズマブ（商品名：ヌーカラ）は、好酸球の働きを抑える注射薬で、症状の緩和が期待されています。一方、従来の治療法では、これまで広く行われてきた方法が用いられます。いずれの治療法でもステロイド薬（例：プレドニゾロン）は使用されますが、従来の治療法では必要に応じてアザチオプリンやシクロホスファミドなどの免疫抑制薬を併用します。この研究では、これらの治療法の効果と安全性を比較し、患者さんにとってより適切な治療法を明らかにすることを目指しています。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

本研究では、2010年3月1日から2024年12月31日までに日本医科大学付属病院呼吸器内科にて、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）と診断され、治療を受けられた**18歳以上の患者さん**のカルテ情報を調査し、治療効果や安全性について検討を行います。ただし、詳細な経過観察データが不十分な場合や、他施設で既にEGPAの治療を受けている場合、または喘息に対してメボリズマブによる治療を受けている場合は対象外となります。

試料：なし

情報：年齢、性別、血液検査結果、肺機能検査結果、治療内容、治療効果、副作用情報 等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 呼吸器内科 職名 助教・医員 鏑木翔太

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24100

メールアドレス：s-kaburaki@nms.ac.jp